

卒後研修委員会

指導医、研修医との

交流会を開催して

卒後研修担当理事 西平綾子

平成16年度から新卒後研修制度が開始され約20年が経過します。この新卒後研修制度ではプライマリ・ケアが重視されている点から、診療所医師等による研修医の指導（地域医療保健研修）もプログラムの中に含まれております。診療所研修の内容としては、一般的な頭痛、腹痛などの訴えの患者さんの診断から、患者さんのご家族とのかかわり、認知症患者さんへの接し方、医療だけでなく福祉や介護へのかかわり、区民への健康啓発など様々な要素が含まれています。北区医師会では病診連携の一つとして北区内の研修指定病院（北野病院、済生会中津病院、住友病院）の研修医の地域医療研修に積極的にかかわってきました。地域包括ケアシステムの中での診療所の役割を学ぶことはもちろんですが、北区では専門性の高い治療を行っている

る診療所も研修医の受け入れを行っており、バラエティに富んだ地域医療研修が実施されております。

北区医師会で毎年開催している指導医、研修医との「交流会」は府医で開かれた指導医と研修医の交歓会を参考に平成19年度から開催されています。今年度は、令和5年10月21日（土）、アンピールホテル大阪（山西福祉記念会館）にて開催しました。まずは第192回学術講演会として、りんくう総合医療センター 感染症内科 部長 倭正也先生より『輸入感染症の現状と対応のしかた〜大規模国際イベントをひかえ〜』の講演がありました。COVID-19が5類に移行されたことに加え、2025年の大阪万博を前に海外からの観光客も増えることが予測されます。海外渡航後の発熱などの症状を訴える患者の診察時でのポイント・注意点として、最新の世界の感染症の状況を鑑みると同時に common disease を見逃さない事が大切であるといった内容でした。後半では症例クイズがあり、研修医の先生向けの事でしたが、とても難問が多く、私は全くと言っていいほど正答できず内心焦っていました。後ほど他の指導医の先生方と話をすると、指導医の先生方にとってもやはり難問であったようで少し安心しましたが、北区は外国人観光客も多く、突然

海外の方が受診される場合もあるので、改めて知識のアップデートが必要と感じました。その後、研修医、病院の指導医、診療所の指導医が集まり「交流会」が開催されました。今年度は研修医、指導医合わせて38名の参加がありました。

当日の出席者（敬称略） 38名参加

北区医師会長

… 本出肇

研修医

… 丹賀康太郎、池田陽呂、ウエルズ健、

土井脩平、望月俊吾、上山祐志、北

川瑞、嶋田有紗、辻野聡一、矢野城（以

上、北野病院）

三嶋慶彦、田中健太、長谷川裕、柳

川博斗、大森圭偉、小原海洋、辛泰暉、

名和聖貴（以上、住友病院）

井上誠子、伊澤正祐、工藤大河、佐

藤侑衣子、棚橋祐太、中山聡一郎、

西山慧、柳田虎之介、山内彬（以上、

大阪府済生会中津病院）

病院指導医

… 猪子森明（北野病院） 山本浩司（住友

病院） 安井良則（大阪府済生会中津病

院） 藤原竜童（大阪府済生会中津病院）

診療所指導医

… 米田円（米田内科胃腸科） 西平綾子

（にしひら内科クリニック） 澤田宏子

（澤田内科医院） 片岡晃哉（兵田クリ

ニック） 大原裕彦（大原クリニック）

オブザーバー

… 倭正也（りんくう総合医療センター）

「交流会」では各病院の研修医代表1名ずつに地域医療保健研修の報告を、スライドを用いて発表して頂きました。過疎地での診療経験を発表された先生から、北区内での診療所での経験・学びを発表された先生もおられ、いずれも地域医療研修の意味合いをしっかりと理解し、多くの学びがあったことが伝わりました。コロナ禍になる前は、研修医の発表後、立食パーティー形式で歓談をしておりましたが、今年度も会場での食事提供は無くし、研修医全員に一人ずつコメントを頂く形式をとりました。病院指導医や診療所指導医からもコメントがあり、最後は研修医と指導医で記念撮影を行い、会を終了としました。例年10月は比較的感染症の流行も落ち着いている時期でもあり、来年度こそは立食パーティー形式での交流会が開催できたらと考えております。今年度も、北区医師会長をはじめ医師会の役員、病院の指導医の方々、医師会事務局員の皆様にサポート頂き無事開催できましたことを感謝致します。

北区医師会では日医、府医主催で開催されております「指導医のための教育ワークショップ」の参加費の半額を負担しております。また、診療所での研修医の受け入れは週1回×1か月というパターンだけでなく、月に1回だけといった色々なパターンがあります。日々の診療にお忙しいとは思いますが、これから北区医師会の研修医に対する地域医療研修にできるだけ多くの医師会員の参加をお願いできればと思います。

指導医・研修医との「交流会」

日時：令和5年10月21日(土)14:00～

場所：アンピールホテル大阪 3階 ホール



指導医・研修医との「交流会」

日時：令和5年10月21日(土)14:00～

場所：アンピールホテル大阪 3階 ホール



指導医・研修医との「交流会」

日時：令和5年10月21日(土)14:00～

場所：アンピールホテル大阪 3階 ホール



【卒後研修の感想】

地域医療実習を通して学んだもの

北野病院 初期研修医 丹 賀 康太郎

北野病院初期研修医2年目の丹賀と申します。今回はこの場をお借りして1ヶ月間の地域医療実習で経験したことや実習を通して学んだこと・感じたことを書かせていただきましたと思います。

北野病院の地域医療研修は2年目の任意の1ヶ月間、大阪市内北区を中心とする医療機関で実施しています。研修の目標は①第一線の診療活動を経験し、その意義を理解する②患者を取り巻く環境が患者の病態に及ぼす影響を理解し、患者を全人的に診るとともに、その家族とも良好な人間関係を築くことの重要性を学ぶ③地域における保健・福祉事業について、第一線医療機関の担っている役割と意義を理解する④地域医師会の活動の現状について理解する⑤病診連携の重要性を認識する、の5点です。

私は7月の1ヶ月間地域医療研修を行いました。月曜日は山田内科医院、火曜日はこすぎ内科クリニック、水曜日は吉本診

療所、木曜日は八杉クリニック、金曜日は本出診療所でお世話になりました。

1ヶ月間の地域医療研修の内容としては慢性疾患に対する診療・発熱外来・糖尿病患者の生活指導・予防接種などの外来見学や初診患者の問診・身体診察、グループホームへの訪問診療への参加、採血・ワクチン接種、腹部エコー、甲状腺エコー等の手技をさせていただきました。

実習中は医学に関連すること・医学以外の知識など様々な興味深いお話をしていただきとても勉強になりました。そのなかでも地域医療に関する先生方のお話の中でとくに記憶に残っているものが2つあります。1つ目は糖尿病・内分泌疾患を専門にしている先生が「網膜症はクリニック近くの眼科で、高血圧や循環器関連合併症は近くの循環器クリニックでフォローしてもらいそれぞれの先生方と連携して一人の患者さんを見ていく。」とおっしゃっていたことです。2つめは内科のバスケットグラウンドを持ち幅広く内科疾患の診療をしていらっしゃる先生が「一人暮らしの人は体調が悪くなってもすぐに受診できないかもしれない。定期受診のときにできる限り事前に察知してあげる必要がある。」とおっしゃっていたことです。先生方のこのようなお話が地域医療における医療機関の果たす役割について考えるきっかけとなりました。

地域医療機関の役割には大きく分けて3つのはたらきがあり

地域研修を終えて

済生会中津病院 木戸文華

ます。1つめは慢性期／急性期疾患の診察・高次医療機関への紹介・各種検査などの外来診察、2つめはワクチン接種や企業や学校などの健康診断等の予防医療、3つめは介護施設や自宅への往診や介護保険認定関連業務、独居高齢者の見守りなどの福祉関連です。各クリニックにはそれぞれの長所・特徴がありそれらを活かした診療を行うことで地域住民の多様なニーズを満たしていることを実感しました。また、患者の生活状況や病歴を家族以外の中では最もよく知っている存在であるかかりつけ医として些細な変化にも気づき、必要に応じて高次医療機関と双方向に紹介・連携することで定期フォローでの異常所見をスムーズに治療に繋げることが可能になっていくことをまなびました。また、同じ地域の住人としての付き合いを通して日常生活のことなども相談しやすい話し相手としての役割も果たしておりこのことによって患者さんがより安心して過ごせていることを実感しました。

最後になりますが日々の業務でお忙しい中1ヶ月間ご指導いただきありがとうございます。地域の診療所・クリニックが地域の中で果たしている役割を学ぶことができました。

また、医学知識にとどまらず人生の先輩としてのたくさんの大切な知恵も教えていただきとても充実した研修になりました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

今回地域研修として、福島県の済生会川俣病院に3週間、澤田内科、西木診療所、本出診療所、大原クリニックで研修をさせていただきました。

済生会川俣病院での研修では、訪問診療や訪問看護の同行、また震災の影響によって設立された施設の見学など、自病院での研修では経験出来ないことを多く経験できました。

その中でも、訪問看護の同行は大変印象的でした。訪問看護に同行させていただく前に患者さんについて教えて頂いたのですが、担当看護師の方が患者さんの身体的だけでなく精神的な面や生活状況なども把握されており、また実際の訪問看護の現場においても患者さんやご家族とコミュニケーションを取りながら生活背景に沿った医療を提案しておられる姿を拝見し、このようなコメディカルの方々の大変な努力があるからこそ地域医療は成り立っているのだと強く感じました。

また身体的、経済的等、様々な理由で通院が困難である家庭への訪問診療や施設への往診にも同行させて頂きました。そこでは先生方が問診や身体診察、ご家族とのコミュニケーションを通じて患者さんの病状を評価して内服薬を処方したり、病院

への通院を提案したりと行えることが限られている中で、適切に必要となる医療を判断し提供されておられるのを拝見し、地域医療活動の現実と厳しさを目の当たりにしました。そして、都市部とは必要となる医療ニーズが異なるのだと実感しました。

近隣のクリニックでの研修では、日々の救急医療とは違った考え方や患者さんとの向き合い方の違いを学ぶことができ、大変貴重な研修となりました。

クリニックでは、問診や身体診察はもちろんですが、患者さんとコミュニケーションを重ねる中で身体的変化だけでなく、精神的な変化を汲み取ってその変化を考慮し検査や内服調整を行っておられました。

そのような診療を目の当たりにし、日々自病院で救急診療をしていて感じていた「かかりつけ医が患者さんを一番理解している」ということをより一層強く実感することができ、患者さんとの信頼関係こそが患者さんが求める医療を提供する上でとても大切なのだと感じました。

来年度から内科専攻医としてより主体的に医療を行う中で、今回の地域研修で得た知識や経験を活かし、患者さんに寄り添った医療を提供できるよう日々努力を積み重ねていきたいと思えます。

地域研修を終えて

住友病院 初期研修医2年目 福井 真衣果

住友病院初期研修医2年目の福井真衣果と申します。私は令和5年12月、地域医療研修として、近藤クリニック、生きる育む輝くメンタルクリニック、本出診療所、のぞみハートクリニック、兵田クリニックで1か月間研修をさせていただきました。ご報告させていただきます。

近藤クリニックでは主に外来見学で上部内視鏡検査や一般的な内科診療を見学させていただきました。若年者から高齢者まで様々な年齢層の患者様があり、かかりつけ医として患者様の全身を診ておられました。診療内容はもちろん、気さくな人柄で、患者様とのコミュニケーションの中にも学ぶことが多かったです。

生きる育む輝くメンタルクリニックでは、主に発達障害や適応障害、統合失調症、うつ病等の外来診療に加え、TMS（経頭蓋磁気刺激）治療やショートケアの参加もさせていただきました。患者様が何に困っておられて、どう解決していけば良いかを的確に判断なさっておられました。診断や治療だけではなく、将来的な職場復帰まで見据えて治療なさるところがとても印象的でした。

本出診療所では腹部エコーや一般的な内科診療を見学させていただきました。診断するまでのスピードもエコーでの各臓器の描出もとても早く感銘を受けました。日本の医療体制や医師会の役割等、普段病院に勤務しているだけでは耳にすることのないお話を聞くことができ大変貴重な研修をさせていただきました。

のぞみハートクリニックでは、在宅医療として訪問診療の見学をさせていただきました。在宅医療では、医師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、コーディネーター等様々な職種が連携することで初めて成り立つものだと知り、チーム医療の重要性を体感しました。それぞれ各家庭によって患者背景が違う中で患者様だけではなく、そのご家族とも信頼関係を築き上げながら、診療にあたる姿は本当に尊敬にあたるものでした。

兵田クリニックでは、ペインクリニックとして整形外科疾患、熱傷後の疼痛や帯状疱疹後の疼痛等に対して、内服治療や神経ブロックに加え、リハビリ治療にも重きをおいて治療なさっておられました。問診や身体所見からどこに病変があるかを素早く的確に診断なさる姿が非常に印象的でした。先生が話してくださる麻酔科学会やペインクリニックの歴史等のお話も貴重で非常に充実した研修でした。

最後になりましたが、まだまだ感染症の流行がおさまらない

中、快く研修を受け入れてくださり、大変感謝しております。ご指導いただきました先生方、スタッフの皆様には、この場をお借りして御礼を申し上げます。末筆ながら、貴院の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



「馬場昭夫 先生 撮影」

北区医師会の卒後研修の感想

住友病院 初期研修医2年目 筒井 竣 亮

2023年5月に初期研修医の地域研修として、大阪市北区を中心に数カ所、クリニックに見学させていただきました。見学させていただいたクリニックの先生方、ここにお礼申し上げます。

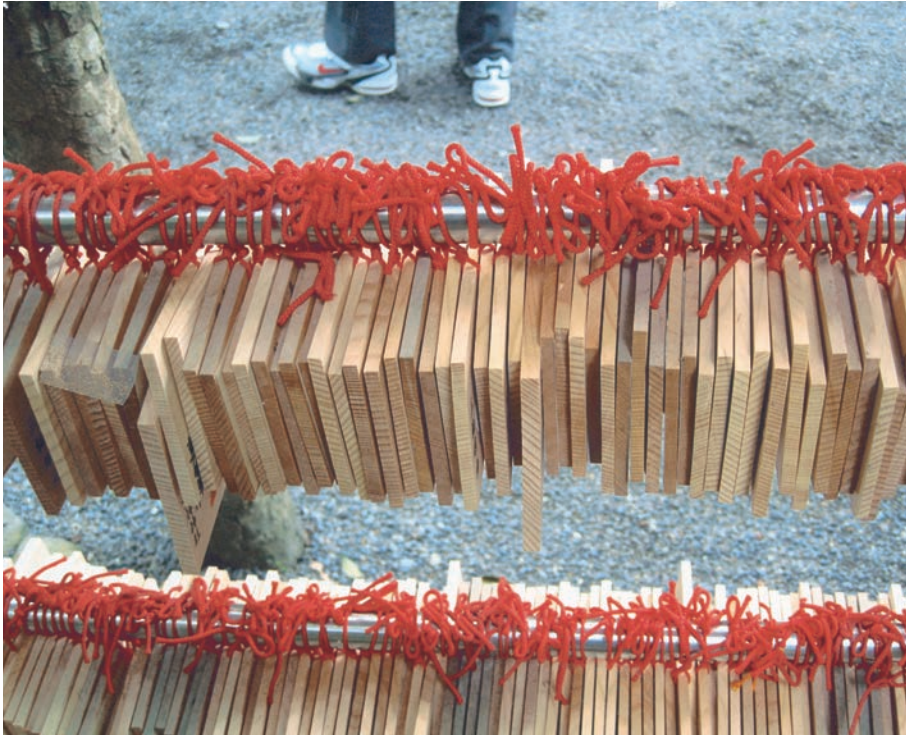
今回の地域研修で印象に残ったことが二つございます。一つは学校検診に参加させていただいた経験です。私が今回お世話になったクリニックの一つに学校医をされている先生がいらつしやり、幸いにも見学日が近所の学校検診の日であったため、ありがたいことに私もその場に参加させていただきました。100を優に超える生徒数から心雑音や肋骨隆起など異常所見をいかにスピーディーにみつけるか、なかなか出来ない貴重な経験ができました。

もう一つは別のクリニックで経験した出来事です。その地域に住んでいるかかりつけの女性患者で、主訴が「耳からピアスがとれなくなった」でした。それは果たして医師の仕事なのだろうか、という考えが刹那によぎりましたが、そのクリニックの先生は何のためらいもなく処置を手際よく行っておられました。先生本人や医師の経歴がある程度長い先生方からすればた

いしたことないと思われそうです。が、医師としての経験が浅い私はこのような命には関わらないが患者が困っている変わった症例に出会ったことがなく、とても印象に残りました。

ところで日本医師会のホームページより郡市区医師会について調べましたため取り上げさせていただきます。郡市区医師会とは地域住民の健康と医療に最も近いところで活動している医師会であり、会員は主に地域の診療所や病院の常勤の医師のため、どんなニーズがあるのか医師自身に見えやすく地域のニーズに応じたきめ細やかな対応が出来る、と書かれています。取り上げた上記二つやその地域の大勢の透析患者の透析を請け負っている透析クリニック、地域柄観光客が多いため英語で診察するクリニックなど、大病院では取り扱わないようなまさに「地域」に密着した医療を私は経験致しました。

また私の勤務先の病院での新規入院患者の紹介状で紹介元としてよく名前をみるクリニックでも見学しました。そこで思いもよらないことでしたが、私の勤務先の病院から紹介された自分の元担当患者に出会いました。より良い医療を提供するために近隣の診療所や病院と役割を分担し患者を紹介しあう「病診連携」をそのときにより鮮明に感じました。より最新の設備でより高度な医療が可能な大病院ももちろん必要ですがこのような地域に根ざした地域医療の推進発展に貢献したクリニックと、その大病院とクリニック両者の緊密な連携・協調体制とで



「馬場昭夫 先生 撮影」

より良い医療環境が患者に提供でき、それら3つはどれも欠いてはならない存在であるということを学びました。



「馬場昭夫 先生 撮影」